

I. 次の文章を読み、下記の設問に答えなさい。

3世紀頃のわが国は、女王卑弥呼が支配する邪馬台国を中心とする30国ばかりの小国の連合が生まれていた。その頃から収穫の一部が税として納められており、そのことは三国志の (1) (2) に「……租賦を収むに邸閣有り。……」と記されていることから窺える。

飛鳥時代になり、(3) (4) 年、大宝律令が完成し、律令制度による政治の仕組みが整い、全国統一的な租税制度が設けられた。戸籍が6年毎に作成され、それに基づいて6歳以上の男女に口分田が与えられた。民衆は、口分田などの収穫から3%程度の稲を収める (5) (6)、都での労役または布を収める (7) (8)、絹・布・糸や各地の特産品を納める (9) (10)、地方での労役である (a) が課された。このほか、政府が春に稲を貸付け、秋の収穫時に高い利息とともに徴収する (b) が設けられ、その利息の稲は重要な財源となっていた。

一方、平安時代後期頃から市場が生まれ、同業者の集まりである (11) (12) が結成され、生産や販売を独占する代わりに税を納付することとされた。室町時代になると、商工業が発展し、当時最大の商人であり、高利貸を行っていた者に対して (13) (14) 役、酒屋に対して酒屋役が課された。また、内裏の造営など国家的行事の際には、守護を通じて全国的に段銭や家屋に対する (c) が賦課されることもあった。

戦国時代を経て、天下を統一した豊臣秀吉は、太閤検地を行い、土地の面積表示を新しくするとともに、田畑に等級をつけ、^(ア)生産力を米の量で換算した。この頃はその (15) (16) を年貢米として納付することが一般的であった。この種の制度は江戸時代にも引き継がれ、年貢米が税収の大部分を占めていた。年貢率は、幕府が基準を決めていなかったもので、藩毎に異なっており、四公六民とか五公五民とか言われていた。商人は、18世紀以降、一定の税率を定めて納める (d)、一定の税率は定めないが、営業が認められる等の特権を得るための (17) (18) を納付した。

日本が新しい租税制度に目覚めるのは、明治維新からのことであるが、資金難に苦しんでいた明治政府にとって、これは大変な事業であった。収入の9割以上を占める年貢は、幕府時代のままで、納付方法も各地バラバラな上に、米の価格の変動や輸送、保管、現金に換える手数や費用も大きな負担になっていた。こうしたことから、1871年、政府は田畑勝手作りの禁を解き、1872年には (19) (20) を廃止して、土地の所有者に (e) を発行した。これにより、年貢を受け取る知行権を内容とする封建的領有制は解体した。1873年、地租改正条例を公布し、全国一律の税法を定めた。その要点は、^(イ)課税の基準を不安定な収穫高から地価に変更し、地価の (21) (22) %を地租とし、土地の所有者を納税者とするものであった。

その後、都市商工業者と農民の税負担に差が生じてきたことから、公平を図るため、1887年、英国などが採用していた (23) (24) 税を導入した。この税は、当時300円以上稼ぐ個人にしか課せられなかったもので、納税者がいない村もあり「名誉税」とも言われた。(25) (26) 年、大日本帝国憲法が公布され、法律や予算さらに税制も帝国議会で審議されるようになったが、議会の権限には様々な制約があった。その頃の衆議院議員の選挙権は、性別、年齢のほかに ^(ウ)納税額による制限が設けられ、有権者は

全人口の (27) (28) %強に過ぎなかった。

第二次世界大戦後、アメリカの経済学者（ f ）が来日し、直接税中心の租税制度の勧告を行い、それに基づき税制改正が行われた。しかし、その後、税収に占める直接税のウェイトが大きくなってきたこと、また、高齢化社会の到来や国際化の進展などから、将来を展望した税制改革の必要性が叫ばれるようになり、直接税の減税が行われる一方、1989年、(29) (30) 内閣の下で消費税が導入された。

〔A〕 文中の空欄 (1) (2) ～ (29) (30) に入る最も適切な語句や人名を下の語群より選び、その番号を解答用紙 A（マークシート）の所定の解答欄にマークしなさい。ただし、選択肢は 2 桁の数字であるから、次の点に注意すること。空欄の左側は 10 の位を、右側は 1 の位を表す。例えば、空欄 (1) (2) の解答が 19 だとしたら、解答欄 (1) は 1 をマークし、解答欄 (2) は 9 をマークしなさい。

《語群》

11 売上	12 株仲間	13 借上	14 古事記	15 中曽根康弘
16 庸	17 鈴木善幸	18 公事	19 日本書紀	20 田畑永代売買禁止令
21 竹下登	22 魏志倭人伝	23 分地制限令	24 調	25 座
26 冥加	27 国役	28 所得	29 土倉	30 三世一身の法
31 大平正芳	32 法人	33 問丸	34 伝馬	35 租
36 夫役	37 本途物成	38 十組問屋	39 宋書倭国伝	40 墾田永年私財法
41 営業	42 結	43 班田収授の法	44 1	45 3
46 5	47 10	48 20	49 30	50 3 分の 1
51 3 分の 2	52 4 分の 3	53 645	54 694	55 701
56 1889	57 1890	58 1899		

〔B〕 文中の空欄 (a) ～ (f) に入る最も適切な語句を解答用紙 B の所定の解答欄に (a) ～ (e) は漢字で、(f) はカタカナで書きなさい。

〔C〕 下線部 (ア)、(イ)、(ウ) に関して以下の設問に答えなさい。

- (ア) 生産力を米の量で換算した制度を何と言うか。解答用紙 B の所定の解答欄に漢字で書きなさい。
- (イ) 課税の基準を変更するとともに、租税の納付方法を大きく変更したが、どのように変わったかを解答用紙 B の所定の解答欄に 10 字以内で書きなさい。
- (ウ) 納税額に関する制限を解答用紙 B の所定の解答欄に 15 字以内で書きなさい。

Ⅱ. 次の文章を読み、下記の設問に答えなさい。

日本の文化史を縦観すると、最も日本独自の色合いが濃厚で、後世の文化に大きな影響を与えたのは平安時代の (31) (32) を中心とした文化と江戸時代に台頭した (33) (34) による文化であろうと考えられる。この二つの時代の文化は、その内容は当然のように大きく異なるが、その形成の背景には類似した政治的な要素が窺える。

平安時代も中期にさしかかると、東アジアの情勢は大きく変化した。唐の国力が衰微し、やがて滅びていくにつれ、唐を中心とした東アジア文化圏の秩序が崩れて、周辺の国々では、独自の文化が育つようになった。日本は寛平6年((35) (36) 年)、(37) (38) の建議に基づいて、(g) の派遣を中止した。その後、中国を統一した (39) (40) の民間貿易船はしばしば北九州に来航し、新しい文物をもたらしたが、日本は東アジアの新しい国々と正式な国交は開かなかった。民間往来まで完全に禁止したわけではないが、この隣国との外交断絶は、言い換えれば、一種の鎖国状態にあった。大陸文化の影響が弱まると、これまで摂取してきた文化を徐々に消化し、日本の風土、日本人の考え方にあわせて、作りかえる機運が生まれた。平安中・後期には日本独特の文学や美術などが数多くつくられ、後世の文化にも大きく影響した。この新しい文化は (41) (42) といい、文学史上の黄金時代とも言える。

この黄金時代を築くことができた、注目すべき要因は、仮名文字の発明である。この一字一音の文字は、漢字の一部をとって考案された片仮名と、漢字の(h)から変化した平仮名とがある。^(エ)仮名文字は、日本人の特有な感性・感情表現を豊かにし、宮中の女性や、僧侶がこれを使い出して、仮名書きの和歌や物語、日記などが作られるようになった。和歌や物語の仮名文学がさかんになり、(31) (32) 文化の開花につながった。この文字を使った伝説もの「(43) (44)」, 歌物語「(45) (46)」のほか、(47) (48) の「源氏物語」と(49) (50) の随筆「枕草子」という、国文学の最高傑作とされる優れた文芸が誕生した。

一方、江戸時代は鎖国政策によって海外への途が制限され、日本は世界情勢の影響をあまり受けなくなった反面、幕藩体制が長く維持され、独自の日本文化が形成されることになった。

政治が安定すると、歴史の編纂への関心が高まる。三代将軍家光は、諸大名や旗本に家系図を提出させ、「寛永諸家系図伝」を編纂し、また(51) (52) とその子鷲峰に国史を修めさせ、「(53) (54)」273巻をなした。17世紀の半ば頃、大日本史の編纂も始まり、これは(55) (56) 年に漸く完成し、397巻の大作となる。また、武士や庶民の間から多くの学者が出て、

儒学の研究は空前の隆盛を見せる一方、社会の実生活に沿った学問、つまり実学もこの時代に^(オ)興った。例えば、貝原益軒が「(57) (58)」を著し、稲生若水の「(59) (60)」もこの時期に書かれた。時代はやや下るが、大蔵永常の手による「(61) (62)」があった。渋川春海の(63) (64), (65) (66) の和算などには科学の精神の芽生えが見られる。

江戸時代の文化の特色の一つは、経済活動の活発化に伴い、学問、芸術、演劇各方面に庶民の色彩が濃厚になった点である。庶民は、生活が豊かなだけに、衣、食、住に華麗さを追求すると共に、伝統文化を摂取することで教養を高め、この時代特有の文化を構築した。庶民の生活、社会の風俗や世相などが文学作品の

素材と背景となり、歌舞伎や浄瑠璃などに見られるこの時代の文学・芸能は、まさに爛熟の時代を迎えた。

井原西鶴は仮名創作を発展させて、(i) と呼ばれる本格的な小説を書いた。(67) (68)
(カ) の脚本は人形浄瑠璃を芸術性の高いものにした。

〔A〕 文中の空欄 (31) (32) ～ (67) (68) に入る最も適切な語句や人名を下の語群より
選び、その番号を解答用紙 A (マークシート) の所定の解答欄にマークしなさい。ただし、選択肢は
2桁の数字であるから、次の点に注意すること。空欄の左側は10の位を、右側は1の位を表す。例え
ば、空欄 (31) (32) の解答が19だとしたら、解答欄 (31) は1をマークし、解答欄
(32) は9をマークしなさい。

《語群》

11 農政本論	12 武士	13 更級日記	14 僧侶	15 宇治拾遺物語
16 貴族	17 授時曆	18 林羅山	19 和泉式部	20 伊勢物語
21 雨月物語	22 発微算法	23 竹本義太夫	24 中朝事実	25 白鳳文化
26 本朝図鑑	27 職人	28 貞享曆	29 元	30 近松門左衛門
31 平賀源内	32 関孝和	33 藤原時平	34 清少納言	35 堤中納言物語
36 庶物類纂	37 農民	38 宋	39 天平文化	40 大名
41 鎌倉文化	42 国風文化	43 読史余論	44 大和本草	45 竹取物語
46 紫式部	47 藤原道長	48 菅原道真	49 六国史	50 太宰春台
51 塵劫記	52 町人	53 伊藤仁斎	54 明	55 広益国産考
56 891	57 892	58 893	59 894	60 895
61 1069	62 1096	63 1609	64 1906	65 1960

〔B〕 文中の空欄 (g) ～ (i) に入る最も適切な語句を漢字で解答用紙 B の所定の解答欄に書きなさい。

〔C〕 下線部 (エ), (オ), (カ) に関して以下の設問に答えなさい。

(エ) 片仮名は漢字のどの部分から考案されましたか。答えを解答用紙 B の所定の解答欄に書きなさい。

(オ) この時代、朱子学と陽明学に傾倒する儒学者が多くいたが、彼らを批判し、孔子、孟子の古典に学ぼうとする儒学者も現れた。その中で、古文辞学を提唱した人の名前を解答用紙 B の所定の解答欄に漢字で書きなさい。

(カ) 井原西鶴が書いた、商人の金儲けの才能を褒め称えた小説の題名を解答用紙 B の所定の解答欄に漢字で書きなさい。

Ⅲ. 次の文章を読み、下記の設問に答えなさい。

1785～86年に江戸幕府は北方の島々に調査隊を派遣した。『西域物語』や (69) (70) などの著者 (71) (72) はその際に同道を許されたが、実際に加わったのは、(71) (72) から天文・地理を学んだ (73) (74) であった。(75) (76) 論者たる (71) (72) にとって、国富の増大に対する差し迫った脅威と感じられていたのは (77) (78) の動向であった。

1804年には (77) (78) 使節の (79) (80) が先年同じ (77) (78) 使節の (81) (82) が持ち帰った入港許可証を携え、江戸幕府に通商を求めて、(83) (84) の地にやって来たが、江戸幕府は使節一行を半年間待たせた上で、一方的にその通商要求を拒否した。この江戸幕府の対応に憤慨した (79) (80) は、軍艦によって (j) や (85) (86) を襲撃させた。

幕府は外国からの通商要求は退けるものの、北方の重要性の認識は持ち、1798～99年には (73) (74) や (87) (88) に千島を調査させ、また1808年には (89) (90) と間宮林蔵は (j) に赴き、その翌年には間宮は (91) (92) を探検していた。

さらに幕府においては1802年から東蝦夷地を (k) 藩から取り上げて直轄地とし、蝦夷奉行、後の (93) (94) 奉行を設置していた。そしてその5年後には全蝦夷地を直轄化し、(k) 奉行を置いた。ただし、(95) (96) 年には幕府は直轄を止め、これを (k) 藩に戻した。

このように19世紀初頭から見られた (77) (78) との接触は通商問題、また領土画定問題をめぐるものであったが、(71) (72) はその『西域物語』のなかで人口問題を論じ、人口の増大また隣国からの脅威に対処すべく、日本の急務の一つとして (97) (98) 開発を主張していた。しかし、この種の蘭学者の議論が江戸幕府の外交政策を変更させるまでには至らなかった。

徳川幕府の外交政策が動揺する様子は、19世紀半ば幕府側から (99) (100) 復活の可否が諮問されたことにおいて確かに見ることが出来る。そもそもこの (99) (100) はフェートン号事件やイギリス捕鯨船員に薪水食料を与えた事件を受けて (101) (102) 年に出され、そしてその17年後にはこれを廃止した経緯があった。ここに来て再び復活する方向に向かっていたわけだが、そうしたなか (103) (104) 年にペリーが軍艦四隻を率いて浦賀に来航、その翌年再び神奈川沖に来航、同年中に (1) 条約が結ばれた。また (77) (78) 使節の (105) (106) との間でも同様の条約が結ばれた。ここに江戸幕府はそれまでの鎖国政策、すなわち (107) (108) の放棄を対内的にも宣言することとなり、国内における 権力基盤はそれだけ弱体化することとなった。

[A] 文中の空欄 (69) (70) ～ (107) (108) に入る最も適当な語句や人名を下の語群より選び、その番号を解答用紙 A (マークシート) の所定の解答欄にマークしなさい。ただし、選択肢は 2 桁の数字であるから、次の点に注意すること。空欄の左側は 10 の位を、右側は 1 の位を表す。例えば、空欄 (69) (70) の解答が 19 だとしたら、解答欄 (69) は 1 をマークし、解答欄 (70) は 9 をマークしなさい。

《語群》

11 アメリカ	12 イギリス	13 フランス	14 韓国
15 中国	16 ロシア	17 オランダ	18 ポルトガル
19 林子平	20 伊能忠敬	21 新潟	22 箱館
23 三国通覧図説	24 神奈川	25 根室	26 最上徳内
27 工藤平助	28 大黒屋光太夫	29 近藤重蔵	30 神戸
31 本多利明	32 プチャーチン	33 高田屋嘉兵衛	34 蝦夷地
35 小樽	36 薪水給与令	37 海保青陵	38 人間交際
39 クルーゼンシュテルン	40 長崎	41 赤蝦夷風説考	42 尊王攘夷
43 ラクスマン	44 レザノフ	45 ベニョブスキー	46 稽古談
47 黒竜江下流	48 カムチャツカ	49 経世秘策	50 松田伝十郎
51 祖法	52 開国交易	53 ゴローニン	54 稚内
55 異国船打払令	56 禁教令	57 クナシリ	58 エトロフ
59 1807	60 1808	61 1821	62 1824
63 1825	64 1842	65 1843	66 1845
67 1846	68 1853	69 1854	70 1858
71 1859	72 1860		

〔B〕 文中の空欄（ j ）～（ l ）に入る最も適当な語句を、解答用紙 B の所定の解答欄に書きなさい。

〔C〕 下線部（キ）～（ケ）に関して、以下の設問に答えなさい。

（キ） 江戸期にも一部には見られ、明治期以降大きく台頭した、わが国の勢力圏を北方地域に拡大せんとする外交政策は何と呼ばれているか。その名称を解答用紙 B の所定の解答欄に書きなさい。

（ク） この条約締結によって江戸幕府は相手国に対して、具体的に何をしなければならなかったのか。そのうちの、薪水食料の提供以外のいずれか 2 項目を、解答用紙 B の所定の解答欄に 15 字以内で書きなさい。

（ケ） 江戸幕府から明治政府への政権交代に影響を及ぼした、親藩大名家の一つが起こした学風・学派は何と呼ばれたか。その名称を解答用紙 B の所定の解答欄に書きなさい。